

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関有知高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月2日(水) 10:00~12:00
- 3 開催場所 関有知高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	丹羽 章	各務原市教育委員会
副会長	平田 昌隆	下有知中学校 校長
委員	多田 幸泰	関青年会議所 理事長
	武田 由美子	特別養護老人ホーム ハートフル 総務主任
	杉戸 美月	関市役所市民協働課 書記
	下平 美和子	関有知高等学校PTA 庶務
学校側	杉江 祐子	校長
	堀 卓也	教頭
	中藪 淳	事務長
	大野 広行	総務部長
	名和 憲一	教務主任
	長尾 真由里	生徒指導主事
	辻 祥平	進路指導主事
	吉野 典子	生活福祉(デザイン)科主任
	平子 直明	特活係長
	春見 直哉	記録

### 5 会議の概要(協議事項)

(1) 第1回の学校運営協議会以降について委員からあった意見、質問に対する回答

1、コロナ禍で実施できなかった活動について

8月に2年生によるインターンシップ、9月に同じく2年生による「関有知マルシェ」、10月には全校で「有知高祭」(文化祭・スポーツ大会)を実施できた。

2、地域の行事への参加について

10月に中部学院大学の大学祭にダンス部が参加。現在、関市の社会福祉協議会と連携して、下有知地区の高齢者の集まりへの文科系部活動の参加などを構想中である。

3、個人で夢を追いかける方の話を聞く機会を設けることについて

関市の特別なモノづくりを考えている企業や、関市の大学生などと交流させ、ぜひ生徒たちへ刺激を与えたいと考えている。

4、地域の高齢者へのデジタル機器の使い方を教える機会を設けることについて

最初に小中学生を対象としたワークショップなどで経験を積ませ、その後高齢者の方へ伝える機会を作りたい。少しずつ実現させられればと考えている。

5、アンケートにより実施前、実施後の変化を分析することについて

今回、関有知ジモト大学・関有知マルシェについて実施前後のアンケートを行った。それを見ていただき、その変化を実証してみたい。

(2) 各分掌からの報告及び今後の取組について

① 総務部

◎関有知マルシェの実施について

- ・昨年度の「関有知ジモト大学」から引き続いて、地域連携や社会人基礎力の育成を目指し、関市内の店舗に協力を仰ぎながら、「本町商店街に賑わいを生むためにはどうすればよいか」をテーマに、生徒が考えたものの販売やワークショップを行った。
- ・実施前後のアンケートから社会人基礎力の定着を感じる生徒が増加していることがわかる。課題はあるものの、次年度も実施していきたい。

② 教務部

- ・本年度新入生から始まった新しい教育課程の実施や評価方法の変更に対し、教員が円滑に対応できるよう、制度を整備するなどの支援を行った。
- ・授業改善をさらに進めていくため、授業アンケートを改善するとともに、実施時期の見直しや振り返りシートの作成等を行った。
- ・学校HPをスマートフォンで閲覧しやすくするため、現在大規模リニューアル中である。また、ICT環境の整備、機器の保守管理は、かなり時間を要するが、教師業務支援員の方の力を借りて、何とか進めることができている。

③ 生徒指導部

- ・MSリーダーズ活動など、生徒自身が動き、あいさつや交通マナーなどを呼び掛けられるように活動を行っている
- ・心のアンケート、いじめ迷惑調査等を実施し、生徒の心の状態を把握し、不安を軽くできるように取り組みを行っている。
- ・学校生活において、社会に通用する服装や言葉遣いを目指しているが、まだまだ難しい。また、生徒の意識調査の結果、自発的なあいさつと場に合った言葉遣いを苦手としていることが分かったため、これらの改善を今後の目標とする。

④ 進路指導部

- ・3年生は「ビジネスプラス展への参加」や進路別対策講座2年生は「職業探究インタビュー」やインターンシップ、1年生は「ようこそ先輩」や「大学・企業見学ツアー」など、進学、就職どちらにも通ずるキャリア教育を行っている。
- ・3年生は教員や外部の講師を招いての面接指導を行っている。
- ・求人受付数は増えており、さらに西濃や東濃などの離れた場所からの求人もある。

⑤ 家庭教育部

- ・地域にかかわる生活産業に関する専門的な知識を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成を目指す。
- ・現在、関連企業への就職率が低下している。一方、進学希望者が多く進学先は保育や介護や看護などの方面があげられる。関連企業への進学や就職ができるよう1年次からの将来を見据えた進路指導を行いたい。
- ・家庭科に関する資格取得に挑戦しており、多数の生徒が合格している。
- ・昨年度行えなかった講座や、地域との交流、高大連携など、やり方を工夫して実施している。

(3) 委員からの感想・意見

意見1 授業を見せていただいたが、生徒たちが全員起きて取り組んでいる姿がすばらしかった。生活デザイン科の紙芝居の発表は、話す方が大変上手で、聞く方も協力的な姿勢

だった。授業に真剣に取り組んでいる生徒の姿が多く見られ、うれしかった。また、関有知マルシェにおいても生き生きした生徒の顔が見られてよかった。

意見2 関有知マルシェでは、大人が本気になって、高校生の声を聞き、取り組んだことが生徒にも伝わっていたのではないかと考える。教員も大変な部分が多いと思うが、生徒にとって貴重な経験になると考える。生徒の得意な分野を生かせる方法を今後も考えていくことが大切である。学校内では実施が困難でも、学校外ならばできることがあるかもしれないという視点で、自分自身も今後のことを考えていきたい。

意見3 授業参観では、授業に真剣に取り組む姿や、生徒同士で教えあう姿、教員が生徒の良いところをほめる姿などが見られよかった。関有知マルシェ当日に足を運んだ際、笑顔で積極的に、接客や宣伝を行っている生徒の姿が見られたことが印象的であった。校外のボランティア活動について、自分たちの所でも実施できないか考えてみたい。

意見4 今回の関有知マルシェの講師は共同で企画・運営をしたNPO法人が選定されたとのことだが、就職先のことを考え、製造業に関する企業も選択肢としてあるとよい。また、3年生の模擬面接の外部講師を、専門の業者をお願いしているという話だが、地元企業の採用担当の方に外部講師を依頼するという方法もある。それぞれのメリット、デメリットを考慮して決めていくのがよい。

意見5 久しぶりに文化祭を見せていただいた。生徒たちが一生懸命に楽しそうに取り組んでいる姿が印象的であった。授業ではメリハリのある授業展開がなされていた。関有知マルシェの振り返りの中に「体験から学ぶ生徒」という言葉があったが、そうした体験を積み取り組みが繋がって生徒たちに自信を持たせることができる。その成果が、関有知ジモト大学、関有知マルシェの前後での調査結果の右肩上がりの状態をもたらしている。

意見6 関有知ジモト大学、関有知マルシェの実施前と実施後のデータ比較で、着実にすべての項目の数字が上がっていることから、取組は関有知高生に確実に役に立っていることが実証されている。また、地域とのつながりがとても大切であり、内容を工夫して同様の取り組みを続けてほしい。今後は、企画の部分で生徒が参加できるような工夫ができるとよい。

## 6、会議のまとめ

- ・よき地域社会人を育てるという目標に向かって生徒・学校・教員の居場所を作り上げられる力のある学校づくりを目指していく。
- ・現在、「関有知高校ブランド」という言葉で、本校の魅力を地域の方へ見えるような形で示していくことを考えている。この関有知ブランドがどのようなものであるとよいか、第3回ではいろいろとご意見を伺いたい。